

ソーシャルワーク学生による災害支援活動の資金調達プロジェクト 2024

能登のチカラ×学生のチカラ Project2024

DWAS-JAPAN 能登半島コミュニティサポートワークキャンプ第1～3期 活動報告

日本ソーシャルワーク教育学校連盟事務局 2024年6月作成

この度は本連盟が実施したソーシャルワーク学生による災害支援活動の資金調達プロジェクト 2024 能登のチカラ×学生のチカラ Project2024 へ多大なるご協賛を賜り、深く御礼申し上げます。

頂きました資金援助を活用し、下記要領にて『DWAS-JAPAN 能登半島コミュニティサポートワークキャンプ』第1～3期として活動を実施致しました。つきましては、ご支援をいただきました活動の実績、会計について、以下ご報告申し上げます。

【本事業の概要】

本キャンプはご協賛いただきました資金を活用し、日本ソーシャルワーク教育学校連盟が主催・コーディネーターとして開催したものです。実施の枠組みは、本連盟災害対応部会（部会長 山本 克彦氏（ソ教連会長補佐・日本福祉大学））が中心となり、被災地域のソ教連会員校や災害支援経験を有するソ教連会員校教員と密な連携を図り、現地での活動や滞在環境のコーディネートを行ったのち、ソ教連およびソ教連会員校のボランティア募集の呼びかけに応じ参加した学生が、学校の垣根を越えて合同で現地での支援活動を展開するしくみです。なお、支援実施期間・場所・内容が期によって異なりますが、その時々被災地のニーズを最優先に決定し、柔軟な活動を実施したことによるものです。

【活動実績】

◆第1期

活動日：2024年3月21日（木）～29日（金）（9日間）

活動人数：21名（期間中合計）（内訳：DWAS-JAPAN 7名／立命館大学 8名／DWAS-SAITAMA（立正大学・埼玉県立大学・聖学院大学）6名）

活動場所：輪島市町野町（マチノマチ）地区

活動内容：被災家屋からの家財の取り出し、破損した家財や家電の運搬

◆第2期

活動日：2024年4月26日（金）～29日（月）（3日間）

活動人数：23名（期間中合計）（内訳：DWAS-JAPAN 3名／佐久大学 8名／北九州市立大学 4名／北陸学院大学 2名／武蔵野大学 5名）

活動場所：輪島市町野町（マチノマチ）地区

活動内容：被災家屋からの家財の取り出し、破損した家財や家電の運搬

◆第3期

活動日：2024年4月30日（火）～5月6日（月）（7日間）

活動人数：33名（期間中合計）（内訳：北陸学院大学 9名／DWAS-JAPAN 3名／高崎健康福祉大学 7名／立正大学 8名／DWAS-SAITAMA（立正大学・埼玉県立大学・聖学院大学）6名）

活動場所：能登町社会福祉協議会 他

活動内容：ニーズ聞き取り、被災家屋からの家財の取り出し、破損した家財や家電の運搬

【本活動における収支】

別紙『収支報告書』をご参照ください。

【参加者の声】

本キャンプに参加した学生から寄せられた感想の一部をご紹介します。(一部抜粋)

- 最初は、同じ学校の人もないし1週間も他人と過ごすのは長いな…、大変そうだなと思いましたが、終わったみると本当にあっという間の4泊5日でした。(中略)お手伝い先の被災者の方々の笑顔やありがとうを聞くと報われた気がしました。
- 発信することの難しさやソーシャルワーカーとして災害に関わることと一般の人として関わることの違いがありました、そこには何かしらの葛藤も生まれてしまうと感じた。
- 慣れることと当たり前の水準を下げることは違うのでただの光景として処理するのではなく異常なことであり1日でも早く回復しなければならないという気持ちで見るのが大切であると感じた。
- 町野町の地域住民との交流を通して、学生ボランティアが支援の乏しい地域へ行くことの意義を実感しました。家財整理等で被災者の方と対面した時、ほとんどの方が涙を浮かべていました。この涙は、乏しい支援と孤独から漸く解放されたことによる、心からの安堵であると思いました。(中略)大学生ボランティアのニーズは、日の目を見ない被災地支援にあることを強く実感しました。
- ほとんどの家屋が倒壊したまま放置されており、まるで地震発生時から時間が止まっているかのような光景に言葉を失いました。また、活動初日に被災地の地区長の方やボランティアのリーダーの方が涙を流しながら思いを伝えてくださり、その時に初めて、被災地の方たちが抱く喪失感や厳しい状況のなかでも見いだそうとしている希望などに直接触れることができ、ボランティアとして一層心が引き締められました。(中略)被災地の方、自衛隊や他のボランティアグループの方、そして年齢の近い同志たちといった、人のもつ力やあたたかさに気付けたことも、このワークキャンプで得た財産です。
- このワークショップに参加させて頂き本当に自分の価値観や被災地に関する考え方が大きく変わりました。5日間という凄く短い期間でしたが、信頼できる仲間ができました。またボランティアの機会があれば、ぜひ参加させて頂きたいです。(中略)ここまで自分の価値観と考え方を変えてくれて、災害ボランティアではありましたが、仲間たちと頑張る時間は本当に楽しかったです。本当にありがとうございました。
- (前略)崩壊した家屋の持ち主の方の様子が特に印象に残っています。それは、家にあるものを選別する元気すらなく、全部処分してほしいと言われたことです。被災者の方々は、これまでの思い出(年賀状やアルバムなど)ですら今後に遺そうとする希望を持っていない状況に、自分が被災者の方に対してどのような精神的なサポートをすることができたのか(今後できるのか)、とても気になりましたし、そのようなケアについても学びたいと思いました。
- (前略)災害を支援する人々との出会いもありました。同じく支援活動をする大学生やNPOや大学教員。また、自衛隊のお風呂では、地域のNPOの方や自衛隊の方と出会いました。自分も被災経験があり、恩返しに行く人、災害のたびに毎度支援に行く人と出会うのは初めてでした。現場でどう活動するか、を決め、状況の変化に合わせてながら、活動を指揮する方々を初めて目の当たりにしました。まさに、災害支援のコーディネーターでした。素朴な感想ですが、現場では、こんな事が行われているんだ、と思いました。とても、勉強になりました。
- 仮設住宅があれば大丈夫だという考えの間違いに気づくことができた。いろんな学校の人と話をすることで様々な支援の仕方でのいいのだと感じた。
- 今回は2回目の能登ボランティアで今回も輪島市で活動です。住民の方が優しくボランティアとして受け入れてくれる体制であるので活動がとてもしやすかったです。作業の後は励みの言葉を頂いたり、住民の方のご好意で松茸ご飯や飲み物を提供して下さったのはとても感謝でいっぱいです。

◆ソ教連:災害支援 Facebook のご紹介

本連盟では Facebook にて災害支援活動状況を公開中です。今後も随時更新を予定しております。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/Jaswe.saigaishien>

◆メディア取材や他団体 SNS での活動紹介状況 (一部)

【地震から4か月】全国から集う学生ボランティア 心に寄り添う活動で…

【公式】テレビ金沢

<https://youtu.be/CNBsflv9T4A?feature=shared>

【専門家が見る被災地の課題】「在宅避難者に一層の目配りを」

【公式】テレビ金沢

<https://youtu.be/Qn3-PH6f8Pc?feature=shared>

【第10師団災害派遣】輪島市・入浴施設で訊いてみた

陸上自衛隊第10師団『金鯨師団』

<https://youtu.be/O-SWIrGviOE?feature=shared>

NHK ラジオ R1 マイあさ! 7時台 輪島で合宿型支援 大学生の挑戦

放映日時:2024年5月10日(金) 午前7:25~午前7:50(25分)

北國新聞 2024年5月7日付



◆ご支援により調達した物資(一部)



◆活動の様子



DWAS-JAPAN 能登半島コミュニティサポートワークキャンプ第1~3期 活動報告
日本ソーシャルワーク教育学校連盟

